



アドビ システムズ 株式会社
141-0032 品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー 19F

アドビ、新たなクラウドプラットフォーム機能を発表 Adobe I/O に新機能を追加し、マイクロソフト、AppDynamics、 Dun & Bradstreet、Mastercard、SapientRazorfish と連携

※当資料は、2017年3月21日に米国本社から発表された[プレスリリース](#)の抄訳です。

【2017年3月21日】

米国ネバダ州ラスベガス発：Adobe (Nasdaq: ADBE、以下アドビ) は、Adobe Summitにおいて、Adobe Cloud Platform の機能強化を発表しました。Adobe Cloud Platform は、コンテンツとデータを統合する基盤となるクロスクラウドアーキテクチャで、アドビの人工知能 (AI) とマシンラーニングフレームワークである Adobe Sensei を活用しています。本日発表された機能強化には、エンタープライズ向けの新たな Adobe Sensei 機能の追加、デベロッパーが市場投入までの時間を短縮し、Creative Cloud アセットを企業のワークフローに組み込みやすくするための新しいツール、そしてパートナー連携が含まれます。また、アドビは、[Adobe Experience Cloud](#) (詳細はこちらの[プレスリリース](#)をご覧ください) と、Microsoft Azure、Dynamics 365 および PowerBI と連携するソリューションの提供開始 (詳細はこちらの[プレスリリース](#)をご覧ください) を発表しました。

クラウドサービスの進歩は、コンピューティングの現状を根本的に変えました。次の10年で、ブランドの成り立ち、顧客体験への没頭と関与の仕方にさらなる破壊的な変革がもたらされると考えられます。ブランド企業は将来的に、デバイス、時間、場所に関係なく、高度にパーソナライズされた体験が状況に応じてリアルタイムで提供される、真のエクスペリエンスモビリティの時代に適応する必要があります。これらの期待に応える最新のエクスペリエンスプラットフォームは、コンテンツやデータに基づいた共通のデータ言語、第三者企業が開発し導入できるオープンエコシステム、AI、マシンラーニングおよびディープラーニングの核となるインテリジェンスで設計される必要があります。

企業は Adobe Cloud Platform を使用することで、あらゆるシステムの顧客データおよびコンテンツを集約および標準化し、より良い顧客体験の構築と提供を大幅に改善することができます。Adobe Cloud Platform に含まれるデータの融合と分析を行うサービスにより、Adobe Sensei のマシンラーニングを通じたマーケティング効果や効率性を強化します。また Adobe Cloud Platform は、API を通じてデータ、コンテンツ、インサイトをパートナーやサードパーティーデベロッパーに提供します。アドビのプラットフォームは、世界中の何千ものパートナーが使用し、年間 100兆データトランザクションを管理し、アドビのクロスクラウドデベロッパー・ポータルである Adobe I/O を通じて 1 日あたり 7 億件以上の API コールを受信しています。

アドビのエグゼクティブバイスプレジデント兼最高技術責任者 (CTO) であるアベイ パラスニス (Abhay Parasnani) は次のように述べています。「 Adobe Cloud Platform の新機能によって、Adobe Creative Cloud、Adobe Document Cloud と新たに発表した Adobe Experience Cloud の機能が拡張され、企業は魅力的な体験を大規模かつより容易に提供できるようになりました。Adobe Sensei が提供する AI、マシンラーニング、ディープラーニング機能における革新は、あらゆる顧客とのタッチポイントでの体験の設計と提供の大幅な向上を実現します。」

クラウドプラットフォームのアップデート

- **新たなStandard Data Model:** アドビは、標準を確立し、エンタープライズ企業がコンテンツ、データ、インテリジェンスを既存のプロセスやデータシステムに容易に連携できるようにする、表現力豊かな共通データ言語である Standard Data Model を発表しました。Standard Data Model は、企業全体にまたがる顧客体験のための単一の言語を作成し、プロファイルやアセットなどの主要サービスを通じてアドビのクラウドソリューションとのより深い連携を保証します。Acxiom、AppDynamics、Dun & Bradstreet、Mastercard、Qualtrics、Zendesk、[24]7 などが Standard Data Model の開発に参画しており、新しい言語に基づいてアプリケーションを開発する予定です。
- **Launchの発表:** アドビは、Adobe Cloud Platform をベースに開発された次世代のタグ管理ソリューションである「[Launch](#)」を発表しました。サードパーティーデベロッパーは Launch によって、Adobe Experience Cloud との連携構築、管理、継続的な更新を行うとともに、市場投入までの時間を短縮できます。アリストアに似た Launch のインターフェイスを利用することで、ブランド企業はアドビからだけでなくサードパーティーデベロッパーの Web アプリを容易に導入して、把握するべき顧客行動を定義し、自社のデジタルマーケティングツールにおけるデータの利用方法を決定できます。Launch を最初に導入するパートナーには、Dun & Bradstreet、Facebook、Twitter、Zendesk、[24]7 などが含まれます。
- **デベロッパーアップデート:** アドビは、クロスクラウドデベロッパーportalである [Adobe I/O](#) の機能強化を発表しました。新しい「I/O Events」と Creative Cloud API は、デベロッパーが Creative Cloud アセットおよびイベントにアクセスすることを可能にします。例えばデベロッパーは、クリエイティブファイルが変更された際や、新しい Creative Cloud アセットが追加された際に自動的に最新のコンテンツをマーケティング活動に利用するカスタムアプリケーションを構築することができます。複数のクラウドにまたがるワークフローをプログラミングする機能により、企業がすべてのマーケティング活動において最新のコーポレートロゴを自動的に使用できるよう支援するカスタムソリューションなども構築することができます。
- **新たなExchangeパートナー連携:** Acxiom、AppDynamics、Clicktale、Decibel Insight、Dun & Bradstreet、Mastercard、Ooyala、SapientRazorfishなどを含む複数のパートナーが、Adobe Exchange で利用可能となる Adobe Experience Cloud との新たな連携を発表しました。AppDynamicsとの連携により、マーケターは、顧客のアプリケーション体験が悪い時期と理由を把握し、そのデータを使用したマーケティング活動を実施することができます。Mastercardとの連携により、Adobe Analyticsのデータと Mastercard の消費者支出傾向のデータを組み合わせることで、マーケターがより効果的なプランを策定し、実現できるようになります。また、アドビは、マイクロソフトとのパートナーシップを強化し、Microsoft Azure、Microsoft Dynamics 365、Microsoft PowerBI と Adobe Experience Cloud を連携した共同ソリューションを発表しました (詳細はこちらの[プレスリリース](#)をご覧ください)。

Adobe Sensei のエンタープライズ向け機能

Adobe Sensei は、人工知能(AI)とマシンラーニング、そしてアドビが持つ大量のコンテンツとデータアセットを活用し、現代の最も複雑な顧客体験の課題に対処しています。Adobe Cloud Platform のインテリジェンス レイヤーである Adobe Sensei は、AI とマシンラーニングの統合フレームワークとそれらをスマートかつ迅速に機能させるインテリジェントサービスを提供します。Adobe Sensei は、Adobe Experience Cloud において、インテリジェントアラート、自動広告インサイト、異常値検出、類似モデリング機能などの 100 以上のインテリジェント機能をすでに提供しており、ブランド企業が顧客のニーズをよりよく理解し、その要望に応えられるよう支援します。

本日発表した Adobe Sensei のエンタープライズ向け機能は以下のとおりです。

- **Fluid Experience** : ソーシャルメディア、VR、IoT (モノのインターネット) デバイス、スクリーンなど、インターネットに接続されたあらゆるスクリーンを通して消費者の求める体験をブランド企業が提供できるよう支援します。
- **Auto Target** : Auto Target 機能は、マニュアルでのテストや、決定論的やルールに基づくコンテンツパーソナライゼーションに関連する複雑さを排除します。
- **異常値検知や貢献度分析の強化** : ブランド企業が統計的に重要なイベントやソースを特定することで、顧客体験を最適化することができるよう支援します。

関連リンク :

- ブログ : Fluid Experience
<https://blogs.adobe.com/digitalmarketing/web-experience/adobe-unveils-the-next-generation-of-adobe-experience-manager-to-power-digital-experiences/> (英語)
- ブログ : Auto Target
<http://blogs.adobe.com/digitalmarketing/personalization/auto-target-personalization-reimagined-by-adobe-target-powered-by-sensei/> (英語)
- Adobe I/O ブログ : <https://medium.com/adobe-io> (英語)

アドビについて

アドビは、世界を動かすデジタル体験を提供します。

アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、[Web サイト](#) に掲載されています。

Adobe, the Adobe logo and Adobe Analytics, Adobe Document Cloud and Creative Cloud are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries.

© 2017 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. All other trademarks are the property of their respective owners.